

地球温暖化時代の 園芸を考える

川崎市緑化センターに学ぶ
暑い夏に無理せず楽しむ花壇づくり

丸山美夏



プロフィール

丸山 美夏

MIKA MARUYAMA

恵泉女学園短期大学（現在は大学に統合）園芸生活学科卒業
恵泉園芸センター・奥沢ガーデン店長を経て独立
2001年より仲間と「moG」を立ち上げ、個人宅のガーデン
設計、管理を行う傍ら、母校のキャンパスガーデンの管理
ほか、コミュニティガーデンの指導などを行う。

2019年より

神奈川県川崎市緑化センターで「緑の相談員」を担当し、花壇
管理や花壇づくりの講座も行う

Instagram ([moggardendesign](https://www.instagram.com/moggardendesign)) で活動を紹介してます！



はじめに

近年の猛暑の中

がんばって、さまざまに対応しているけど……。

従来型の花壇づくりを無理に行うより、

新しい花壇づくりにシフトしませんか？

キーワードは「がんばりすぎない花壇づくり」

それって、どういうこと？

具体的に紹介します！

時代による変化

(気候変動、予算削減、高齢化)

従来の公共花壇の課題

(美化・清掃中心、一年草の群植)

Contents

今日お話しすること



世界的な潮流と 日本での新しい動き (新宿根草主義)

New !

「がんばりすぎない
花壇作り」

01

従来の群植花壇の問題点

従来型花壇の特徴

- * 一年生草花中心の植栽
- * 同一品種の大量植え付け
- * 季節ごとの一斉植え替え

環境面での課題

- ・ 短期間での大量消費型
- ・ SDGsの観点から持続可能性に欠ける
- ・ 植物の生産・運搬・廃棄による環境負荷
- ・ 過剰な資源投入（化学肥料、農薬、水）

デザイン面の課題

- ・ 単調な景観
- ・ 画一的な印象
- ・ 地域の独自性が出にくい



世界的な潮流 宿根草を活用した新しい花壇づくり

●欧米での革新的な取り組み

- * ピート・アウドルフ氏の公共花壇デザイン
- * 自然調和型の植栽デザインの世界的影響

●宿根草活用のメリット

- * 持続可能性の向上
 - 植え替えの削減
 - 維持管理の効率化
- * 生物多様性への貢献
- * 四季を通じた景観の変化
- * 耐久性の向上
- * 長期的なコスト削減



03

世界的な潮流（宿根草の活用）実例

写真：ニューヨークの
ハイライン・パーク

ピート・アウドルフ氏の作庭する
ガーデンが、ナチュラルスティック・
ガーデンなのか？

ガーデンのコンセプト

ニューヨークの土地に合う丈夫で乾燥に強い、
維持管理の手間や費用がかからない種類を選ぶ。
植栽する植物の半分は、地域に自生する宿根草で、
地元の生産者によって栽培されている。
野生生の住処を提供する。
無化学肥料、無農薬で管理している。

花だけでなく、葉の色合いはもちろん、晩秋
の枯れゆく姿、初冬の完全に枯れた姿まで
鑑賞対象とする



04

日本での新しい働き 実例

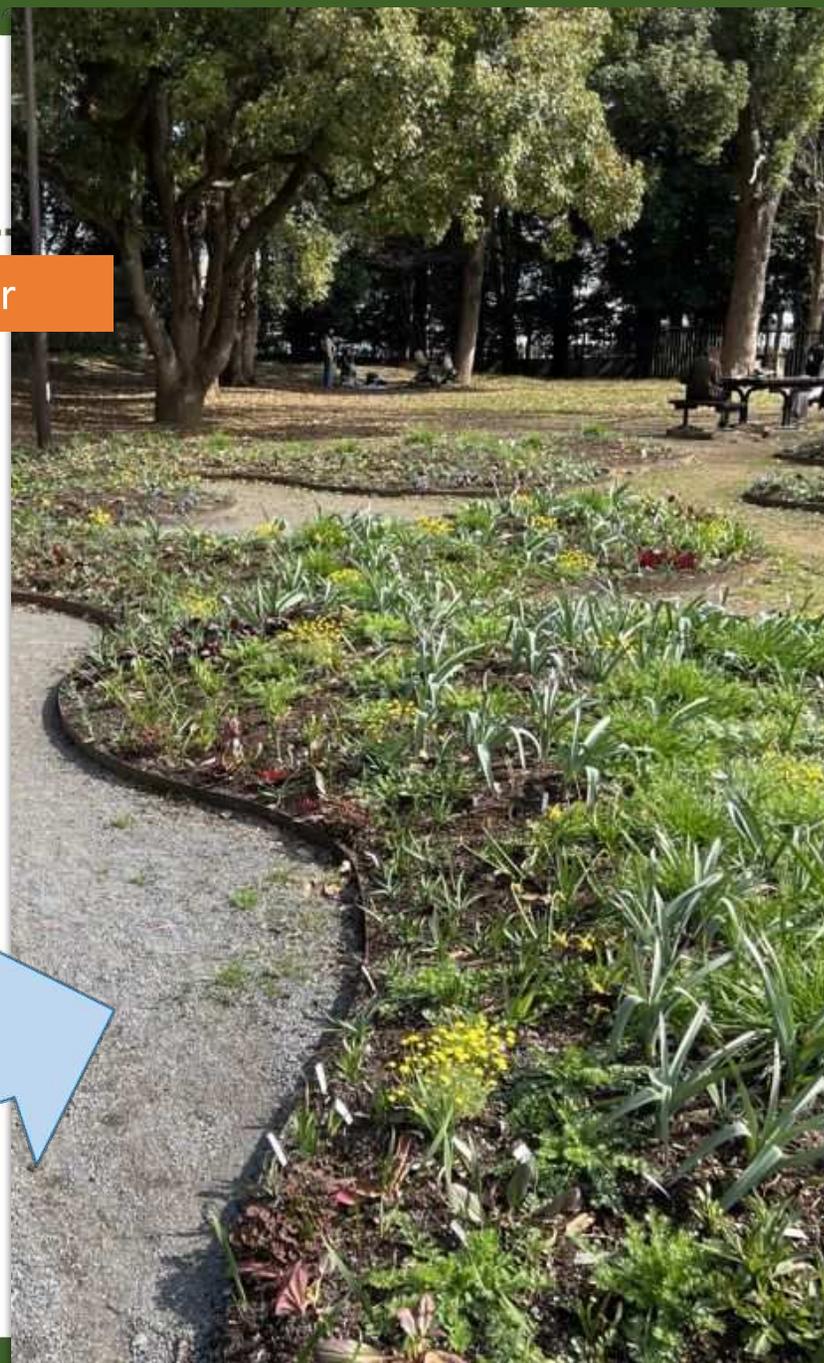
代々木公園モデルガーデン 「the cloud」

2022年度より始まった
都立公園での新しい取り組み。
「一年草主体の花壇」から
「宿根草を中心とした花壇」へ。
アドバイザー吉谷桂子氏のコンセプト
によるもの。



Before

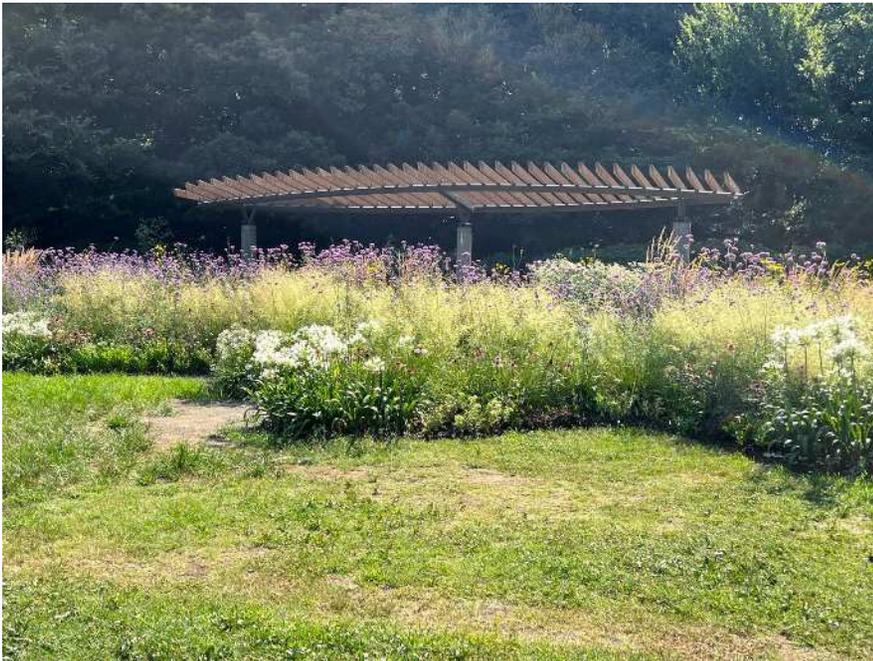
After



世界的な潮流（宿根草の活用）と日本での新しい動き

日本における新しい動き

- 従来の群植花壇からの脱却
- 宿根草主体の花壇への転換
- 都市公園での先進的な取り組み開始



「宿根草による持続可能なロングライフ・ローメンテナンスなガーデンづくり」へ
吉谷氏の見本花壇 夏の様子

06

「がんばりすぎない花壇づくり」とは？

コミュニティガーデンでやってみたら……

宿根草だけで庭をつくるのは、むずかしい?!

◎高温多湿の日本では、秋の枯れ姿が美しい?!

◎限られた花壇のスペースを大株になった宿根草が占領 = 植栽が単純になる!

◎宿根草が大株になると、株分けが大変! = ローメンテナンスではない!

⇒ 宿根草は種類により特性や特徴が異なり、専門的な知識や経験が必要。

⇒ 一年草は、本当に厄介者?



一年草と宿根草、それぞれの良さをいかす

ハイブリッド方式がよいのでは？



「がんばり過ぎない花壇づくり」とは

(1) 1年草の再評価 (一年草ならではの価値)

一年草が悪者扱い
になってない？

- 。 華やかな彩りの演出
- 。 季節感の表現
- 。 花壇の見どころを創出



「がんばりすぎない花壇づくり」とは

(2)タネから育てる 1年草の特別な意味

実践的メリット

- * 環境への適応力の向上
- * 長持ちする強い苗の育成
- * 矮化剤を使用しない自然な姿
- * 立体的なデザインの可能性
(園芸店では草丈が高い苗があまり流通しない)

活動としての価値

- * ボランティアの愛着形成
- * 生長を共に楽しむ喜び
- * コミュニティ形成の場
- * 園芸教育の機会



一年草は、タネから育てよう！



- ・ 生長する過程を楽しむ
- ・ 自然のサイクルを知る
- ・ 自然のサイクルに合わせる
- ・ 植物の生長に合わせる



タネまきスケジュール

夏秋花壇片付け
春花壇植え付け

12月

夏秋の草花 タネまき



4月

10~11月

春の草花 育苗
夏秋花壇 見ごろ



5~6月

夏秋の草花 育苗
春花壇 見ごろ



9月

春の草花タネまき

7月

春花壇片付け
夏秋花壇植え付け



11

タネから育てる一年草 育苗の手順

春花壇を彩るパンジー



9月中旬
タネまき



10月上旬
セル上げ



12月中旬
定植



11月上旬
ポット上げ



12

「がんばりすぎない花壇づくり」の実際

タネから育てる花壇づくり 春花壇

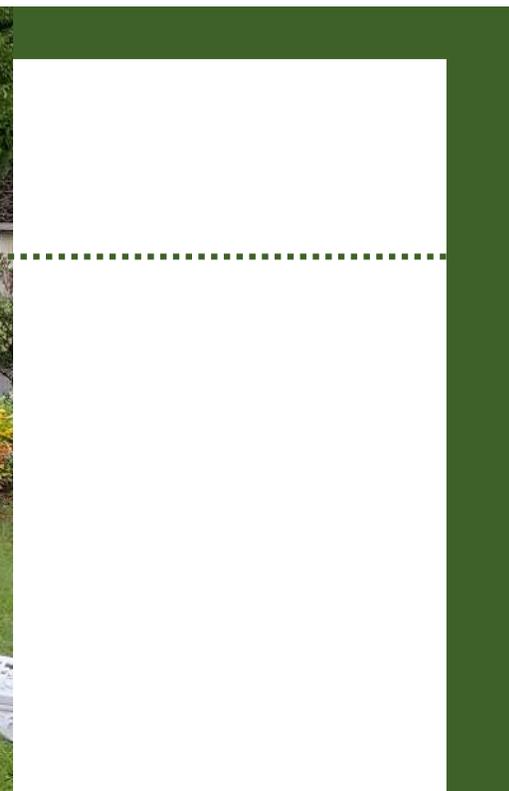


9月中旬にタネをまきし育苗⇒12月上旬に花壇に植えつけ
2月 草花はロゼットの状態で寒い冬を越す（写真左）
4月 花茎が伸び、草丈が高くなる（写真右）



春花壇 GW前後 様々な花が咲き揃い華やぐ季節

手前が低く、後方が高くなるよう、立体的に植物を配置する花壇。
草丈、花色、開花期などそれぞれの草花の特徴を考えてデザインしている。



夏秋花壇 お盆の頃

色彩を考えて植えつけ
イエロー系ボーダー（写真左）
ピンク系ボーダー（写真右）



恵泉女学園の園芸に学ぶ

栽培

栽培する地域で
「タネから育てる」
ことを基本とする

1 タネから育てる

1

3 立体的なデザイン

3

配置

草丈の高低差を
活用し、
花壇に立体感
を持たせる

一人ひとりの心を豊かに
人と人の輪をつなぐ



恵泉女学園では、園芸が教育の柱にある。時代により体制や、気候条件により、使用する植物は変わっていくが、80年間花壇づくりのコンセプトは、継承されている。

東京近郊の気候に適した
育てやすく花期の長い
品種を選定

品種

2

2 適切な品種選択

4

4 季節感のある色合い

季節に応じたカラー
コーディネート

◎春花壇

青、ピンク、淡色系の
グラデーション

◎夏秋花壇

赤、黄などの強い色も
取り入れる。

色彩



<活動事例>

川崎市緑化センター

大きく育った木々に囲まれた園内は、季節の草花が彩るガーデンや温室、芝生広場などがある。緑の普及に努め、地域の方が一年を通じて、植物と触れあい、知識を深める場、憩いの場を提供している。

川崎市緑化センターの花壇づくり

「タネから育てる花壇づくり」



- 川崎市緑化センター主催定例園芸講習会「タネから育てる花壇づくり」全三回。
- 講習会の卒業生は、川崎市緑化センター花壇ボランティアに参加。
- 地域の人と育む花壇づくり

「タネから育てる花壇づくり」講習会プログラム

春期

4月中旬

タネ
まき

5月中旬

ポット
上げ

6月下旬

定植

秋期

9月中旬

9月中旬

9月中旬





除草がメインだった作業に、
タネまきや育苗、植えつけ
枯れた花を摘む花がら摘みなどが加りました。



みんなでタネから育てるみんなの花壇
今夏の花壇の様子



タネから育てる花壇づくりを始めて4年、
空梅雨、猛暑の夏、秋の長雨を乗り越え
草花が秋花壇が飾っています。
よく見ると虫食いや大きな穴もありますが
見事な花壇で来園者に魅了しています。



「日本の里山の暮らし」の根底にある自然環境の調和を大切に地域の皆さんと、猛暑の夏に頑張らなくていい花壇づくりをしながら、環境問題について考えていきたいと思っています。

ありがとうございました！



昨春の
花壇の様子

